

市民活動拠点の概要

【平成28年度 第1回 石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会 資料】

平成28年9月7日

1. 市民活動拠点の目的と運用方針

■市民活動拠点の目的

- 石巻南浜津波復興祈念公園では、基本構想においてその理念の一つに「人の絆をつむぐ」とされ、「市民、NPO、企業など多様な主体が、公園の計画段階から管理運営段階を通して、計画検討、植樹活動、伝承活動、防災学習、施設維持管理など、様々な形で参画・協働できる場を構築する。」とされている。
- すでに「がんばろう石巻」看板や「南浜つなぐ館」等の市民活動が公園予定地で行われており、これらの活動が継続できるよう、近隣の国営追悼・祈念施設(仮称)区域内の市有地に機能移転を行い、公園の工事中でも利用者のアクセスを確保するとともに、公園計画上も市民活動拠点と位置づけ、基本計画に定める市民参画、協働の取り組みを実践する。

■当面の運用方針

- 国が借用している市有地で活動が行われることから、一義的には東北国営公園事務所が窓口となってこのような市民活動拠点の受け入れ調整を行うこととし、国が実施要領を定め、市を経由して登録申請を提出してもらい、活動団体を登録する。
- 申請時に市民活動団体は実施計画書を市経由で国に提出し、その内容について国、県、市で確認した上で条件を付し、活動を許可するものとし、国、県、市は可能な範囲で活動を支援する。
- 活動団体間の調整は、別途市で設置を検討している市民協議会で行うこととし、活動内容については県の有識者委員会に適宜報告をするものとする。
- これは公園供用前までの暫定的な取り扱い方針であり、供用後の取り扱いについては引き続き検討する。

■市民活動拠点の位置



2. 市民活動拠点の運用イメージ

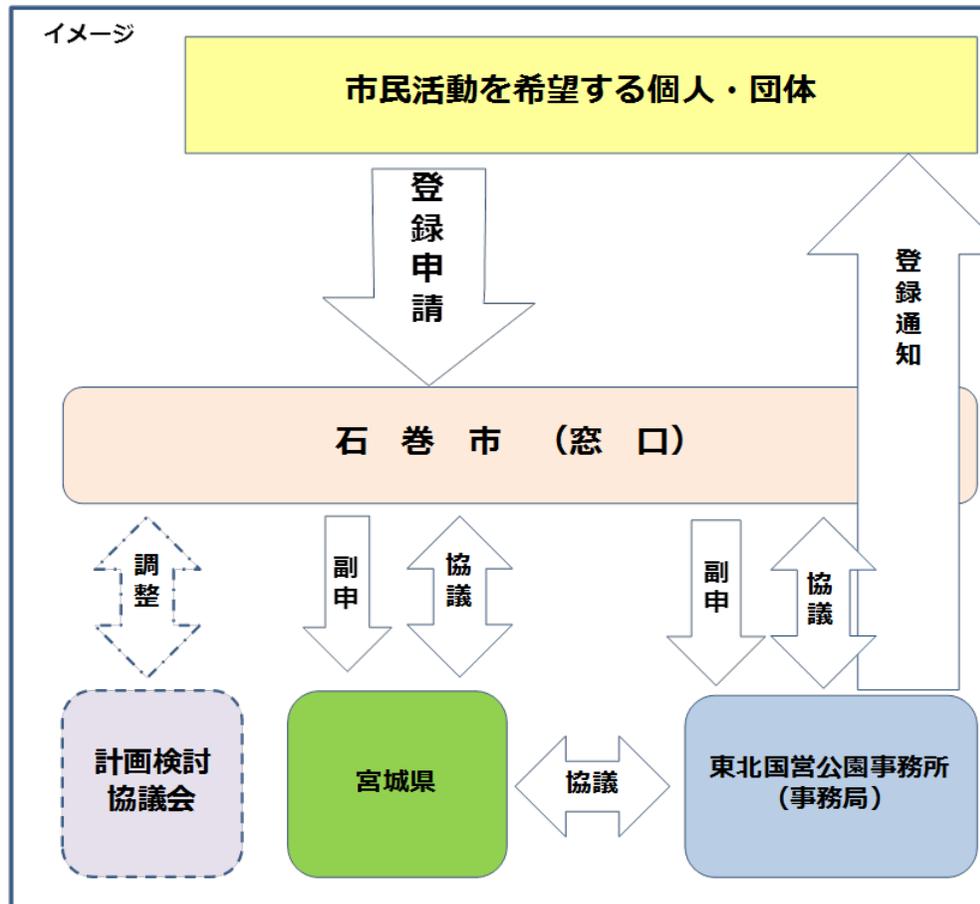
石巻南浜津波復興祈念公園内の国営追悼・祈念施設（仮称）区域内の市民活動について

○市民活動とは

- ① 震災の記憶と教訓を後世に伝承する活動
- ② 植樹活動
- ③ 防災学習活動
- ④ 施設維持管理活動
- ⑤ その他目的に則した活動（目的 石巻南浜復興祈念公園（仮称）基本計画に沿うものとする）

○活動の条件等

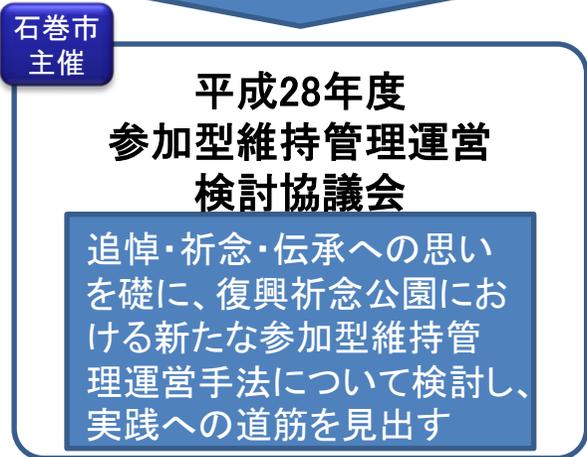
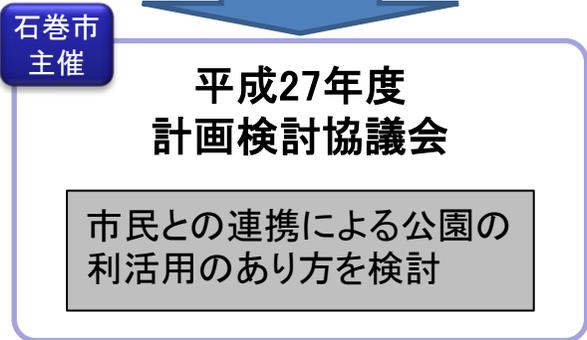
- 登録申請を行い、登録を受けること。
- 実施計画書を作成し、それに基づき活動すること。
- 活動時には、交付された登録書を携帯すること。



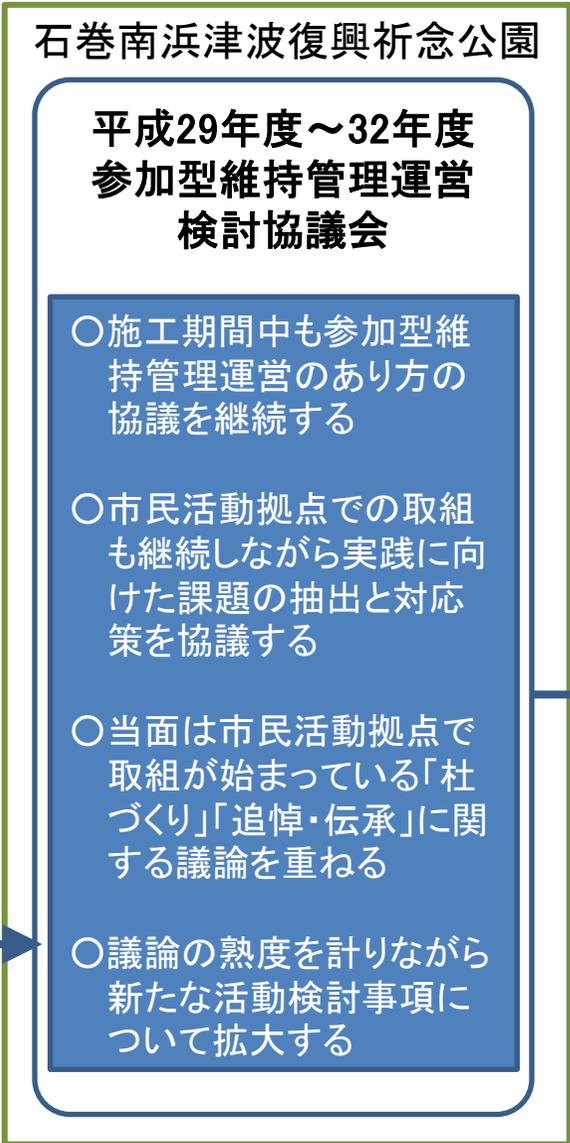
3. 市民活動拠点の活用イメージ

東日本大震災

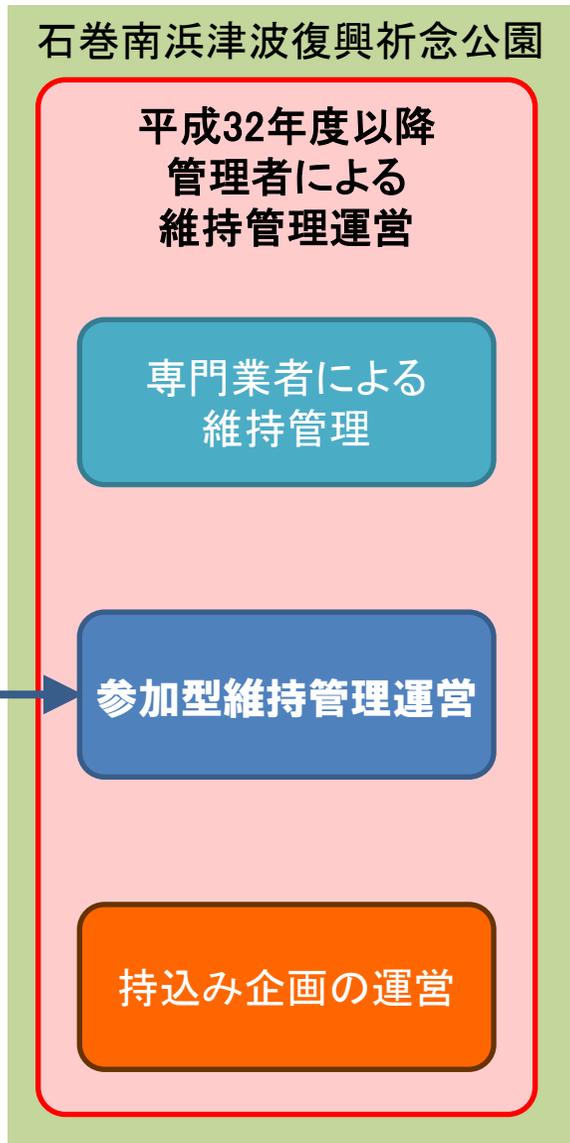
計画設計段階



施工段階



維持管理運営段階



4. 市民活動拠点の現在の取り組み

■市民活動拠点の位置づけ

- 初代「がんばろう石巻看板」は、震災直後の被災地に、津波で流されてきた材料で制作され、復興への想いが込められたこの場所は、自然発生的な追悼の場、伝承活動の場となっていた。
- 初代「がんばろう石巻看板」の位置は、二線堤の機能を持つ南光湊線の区域に重なることから、そのままの状態を維持することは困難となった。
- 市民により東日本大震災の教訓の伝承活動が行われていることから、閣議決定の趣旨も踏まえ、震災の風化を防ぎ、引き続き教訓の伝承等の市民活動が継続できるよう、近隣の国営追悼・祈念施設(仮称)区域内の市有地に機能移設を行うものとした。
- 公園の工事中でも利用者のアクセスを確保するとともに、公園計画上也**市民活動拠点**と位置づけ、基本計画に定める市民参画、協働の取り組みを実践する。

■現在までの市民活動拠点整備の流れ

年月日	内容
平成28年3月11日	初代がんばろう石巻看板にて追悼のつどい(灯籠点灯等)を実施
平成28年3月下旬	市立門脇中学校美術部の協力による二代目看板の制作
平成28年4月11日	二代目看板を移設先に設置
平成28年4月11日	連携して伝承活動を行う、みらいサポート石巻の「南浜つなぐ館」も同時に移設
平成28年7月28日	旧門脇小学校で活動していたころの森の育苗温室を市民活動拠点に移設



H28.3.11追悼のつどい



H28.3 二代目看板制作



H28.4.11二代目看板設置



H28.4.11南浜つなぐ館移設



H28.7.28育苗温室移設

5. 市民活動拠点の整備状況

■ 整備中の状況 (平成28年4月8日撮影)



■ がんばろう石巻看板・南浜つなぐ館移設後の状況 (平成28年7月19日撮影)



■ こころの森温室移設後の状況 (平成28年8月19日撮影)



6. 市民活動拠点で活動する団体 1/3

■ がんばろう石巻の会【がんばろう石巻看板】

- 震災後の絶望感漂う中、誰もがうつむきながらさまよい歩く姿を目にし、「津波に負けたくない、地域の人々を励ましたい」との思いから、津波で流されてきた材料で看板が設置され、制作メンバーでがんばろう石巻の会を設立。
- 会では、「追悼3.11のつどい(灯籠制作・点灯)」、地域を少しでも明るくしたいとの思いで始めた「こいのぼり」、津波後に被災地に咲いたひまわりから種を採取し、これを咲かせて希望者に種を配布する「ど根性ひまわり」の活動を主にしている。
- がんばろう石巻看板には、現在でも震災学習のために全国から人々が訪れ、中には花を手向けて手を合わせる方もいる。

■ 活動の様子



▲3.11のつどい



▲こいのぼり



▲ど根性ひまわり



▲震災1000日・2000日追悼の灯り

6. 市民活動拠点で活動する団体 2/3

■ 公益社団法人みらいサポート石巻【南浜つなぐ館】

- 震災学習の場となっている「がんばろう石巻看板」に隣接し、震災の記録と教訓を伝える施設として、「南浜つなぐ館」が設置された。
- 南浜つなぐ館は、来訪者に震災の知識をより深めてもらうことを目的に、語り部活動等を行う公益社団法人みらいサポート石巻が平成27年11月22日に設置し、平成28年8月第1週の開館日をもって、総来館者数10,000人を超えた。
- 施設内には、津波や火災による被災状況を伝えるパネルや、被災直後の南浜の写真、かつての南浜地区の模型、ドローンで撮影された現在の南浜の映像などにより、情報提供がなされ、展示内容についてスタッフから説明を聞くこともできる。
- 風の強い南浜において、天候の影響を受けにくい屋内での震災学習の場として、新たな機能を担っている。

■ 活動の様子



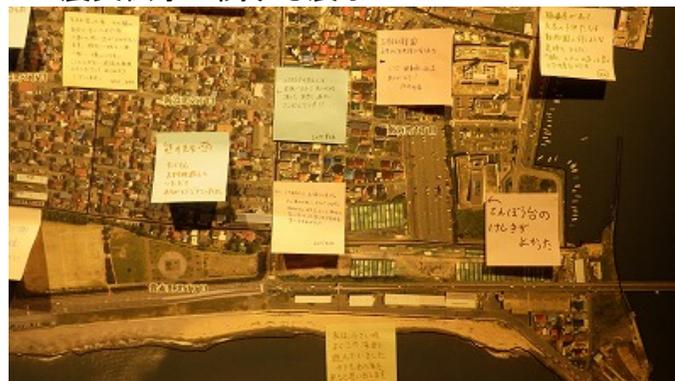
▲ 南浜つなぐ館



▲ 震災伝承に関する展示



▲ 語り部による現地案内



▲ 街の記憶の保全

6. 市民活動拠点で活動する団体 3/3

■ 特定非営利活動法人こころの森【育苗温室】

- 東北沿岸部で森を育み、寄り添う活動を通して、自然を感じ敬うところを養い、自然の循環と共に、いのちの循環を学び、こころを育てることを目的に、平成27年8月に設立された。
- 平成27年11月上旬に牧山、12月上旬に日和山でコナラ、モミジ、ケヤキ、クロマツの種を収集し、土を入れた育苗トレーに埋め、被災した門脇小敷地内に設置したビニールハウスに保管していた。
- 南浜地区に整備される復興祈念公園への植樹をはじめ、さまざまな自然体験事業を展開する計画である。
- 購入した苗木を植えるのではなく、地元にある種を拾って育てることに意味があるとし、森を人と自然の寄り添い方、本当の心の豊かさを感じられる場所を目指している。

■ 活動の様子



▲活動の場となっている温室



▲平成27年11月に実施した種採り



▲温室内での播種作業



▲実生苗の鉢上げ

